LISBON-PORTUGAL

2019.9.5-9.30

IADE-Universidade Europeia

海外派遣プログラム
月間報告書

ポストカードみたいな一枚。もちろん乗れます。

大学が始まって約２週間、リスボンに住んで約１ヶ月が経ちました。リスボンは観光地となっているため、常に多くの観光客で賑わっています。
とても住みやすく、街並みも綺麗なので暮らしていて楽しい街です。

COUNTRY

2012.9.5-9.30

リスボン大聖堂は着いた初日に行きました。

最初の報告書になるので、この国に慣れる前に、日本と異なる点や気がついたことを書いていこうと思います。

リスボンは日本と似たような気候ですが、日中の日差しがとても強い為、初日にサングラスを購入しました。
ポルトガルは聞いていた通り、ヨーロッパの中では比較的治安がいい方ですが、夜のメトロは１人では乗らないようにと友達に釘を刺されました。物乞いや変質者が多いらしいです。

リスボンは海が近く街並みもとても綺麗ですが、坂が多く、石畳も滑りやすくきちんと整備されていなかったりと、何度か転びそうになりました。杖をついている老人が多く見られるのは坂のせいなのでしょうか。

カスカイスなど、メインの観光地から少し外れた場所はとても静かで、リスボンがいかに観光地として栄えているかが分かります。

ポルトガルだけではないかもしれませんが、至る所で様々な人がカフェや公園のベンチでのんびり過ごしているのが見られます。大きな公園に行った時、ほとんどのベンチが老夫婦で埋められていました。私もせっかくなのでベンチに座って読書をしようと思いましたが、ハエが多すぎて諦めました。写真だけで見るととても清潔な街に見えるかもしれませんが、足元を見ると犬のフンばかりです。歩いていると時折感じるな変な臭いとハエの原因はこれだと思います。

マイナスな点もすこしありましたが、それ以上に、街の美しさと人の優しさにこの１ヶ月救われました。
こちらに来て、建物に描かれているアート (落書き？) やアズレージョの写真を撮る事が私の趣味の一つになりました。アズレージョとは、ポルトガルの伝統的なタイルで、いろんな柄があり、しかも全て手書き。新しい柄を発見するのが楽しいです。最後のページにいくつか載せたので是非見てください。その他にも道での演奏を聴いたり、歩いていて飽きないです。

また、ポルトガル人はとても優しく、困っていると、見るからに外国人の私にも躊躇わず話しかけてくれます。ポルトガル語で。ポルトガル語も少しづつ話せるようになっていきたいです。

サン・ジョルジェ城からの眺めは最高です。

アゲダの傘祭りの名残が観れました。

2019.9.5-9.30

LIFE

こちらでの生活について書きたいと思います。

大学から歩いて 20 分の所に、私含めて 3 人でシェアハウスに住んでいます。全員違う大学で、生活リズムも少し違うのか、1 日に少し会話をするくらいです。とても優しく、距離感も程よいので家にいて気を使うことはありません。てっきりヨーロッパはホームパーティーばかりかと思っていましたが、住む人によるみたいです。

ポルトガルの野菜やフルーツはかなり安いですが、外で食べると日本の外食と同じくらいのお金がかかる為、こちらではほぼ自炊です。アジアンスーパーやショッピングモール、家の近くに小さなお店がある為買い物には困りません。

坂が多く、移動が大変かと思いましたが、基本移動はバスです。必ずしも時間通りに来るわけではありませんが本数が多いのでとても便利です。学生用定期があるので月 30€ で列車メトロバス全て乗り放題とかなりお得。

交通機関以外にも、シェアサイクルやシェアスクーターがかなり普及しています。一度乗ってみましたが、シェアスクーターで石畳を移動すると、視界が揺れて前が見えなくなるのでお勧めしません。

ポルトガルに来て驚いたのは、レジ打ちの店員さんが目の前で急に店内の歌に合わせて呑気に歌い始めたことです。レジ打ちの人は基本椅子に座っています。この程よいゆるさの働き方が羨ましいです。

大学が始まる前に、ポルトとアゲダとコインブラへ、大学でできた友達と、パーティーやビーチに行きました。空いた時間を活用して積極的に外に出て色んなものを見ていこうと思います。

路面電車が常に走っています。

道の至る所に置かれているシェアスクーター

2019.9.5-9.30

地下２階から７階まであります

初日の演奏。歌唱力も凄かったです。

UNIVERSITY

IADE 大学には、60 人ほどの留学生が来ていました。日本人は私以外いません。アジア人は数名いるらしいのですが、私がとっているクラスにはいないので、珍しがられました。

ウェルカムウィークの初日には、大学についての説明と、大学の吹奏楽部のような人たちが、音楽や歌や踊りを披露してくれました。授業が始まった今でも、彼らが大学の近くの通りで歌って踊っているのをよく見かけます。とても小さな大学ですが、大学前の通りには多くの学生が話したりタバコを吸っているため、常に賑わっています。

ウェルカムウィークでは、申し込めばリスボンツアーに連れて行ってくれます。バスで主要の観光地をみんなで巡り、ガイドの方がいろいろ説明してくれました。日本の話も出てきて面白かったです。

時間割は、ウェルカムウィークが終わった最初の２週間で確定します。コーディネーターの方から、留学生が事前に希望した授業のスケジュールを渡されます。シラバスはなく、授業名のみのリストしか渡されていないため、想像と異なる授業もあり、多くの学生が初回の授業を受けた後に変更を希望していました。変更可能な授業数は２つのみです。授業の時間が急に変わったため授業が被ってしまったり、満員で履修出来なかったり、と、思ったように授業が組めず、多くの留学生が留学生課になだれ込み、とても慌ただしい２週間でした。

リスボンツアーで行ったジェローニモス修道院

ツアーの方が色々説明してくれました。

VisualDesign のエクササイズ。
身の回りのものが未来にはどうなっているかを考えました。

STUDY

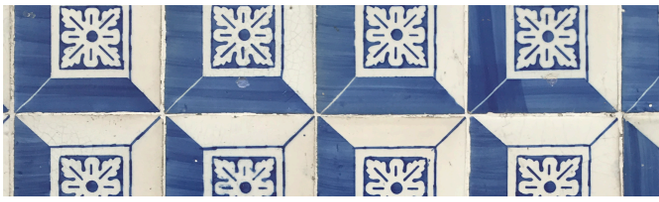
授業についてです。今期は留学生が受けられるプロダクトデザインの授業が開講していなかったため、Visual Design と Fashion and Photography という、共に週 2 回の授業を取ることにしました。他にも取りたい授業はありましたが、満員だったのと、深夜までの授業しかなかったため、諦めました。かなりショックでしたが、残りの 2 つを全力で頑張ろうと思います。

Visual Design の授業では、5 つほどの図書の中から 1 つ選び、その本の要素を取り入れた " 未来の何か (アプリでもプロダクトでもサービスでも良し) " をデザインし、ブランディングまでする個人ワークです。私は「不思議の国のアリス」を選び、子供の成長をテーマにして進めていくことにしました。初めの授業では、みんなでホワイトボードにたくさんのリンゴのイラスト描き、この授業ではアイデアを出す時は質より量を求めなさいと言われました。2 回目以降の授業では、未来のものをデザインするためのエクササイズをしたり、紙にひたすらブランドのロゴを描いたり、コンセプトについてのレクチャーを受けるなど、とても充実した授業です。

ひたすらみんなで描いたリンゴたち。

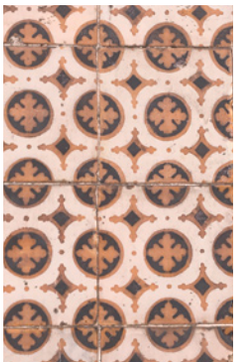
Fashion and Photography の授業では、実際に写真を撮る実践的な授業と、写真の歴史についてディスカッション形式の座学が週に 1 回ずつあります。初回の授業ではカメラマン・モデル・アシスタントを全て経験しました。座学では、生徒がどんどん質問していくのがとても新鮮で、私も積極的にディスカッションしていこうと思います。

Fashion and Photography の授業風景



Azulejos

私が１ヶ月で集めたアズレージョの一部です。
アズレージョ美術館にも近々行く予定なので楽しみです。



LISBON-PORTUGAL

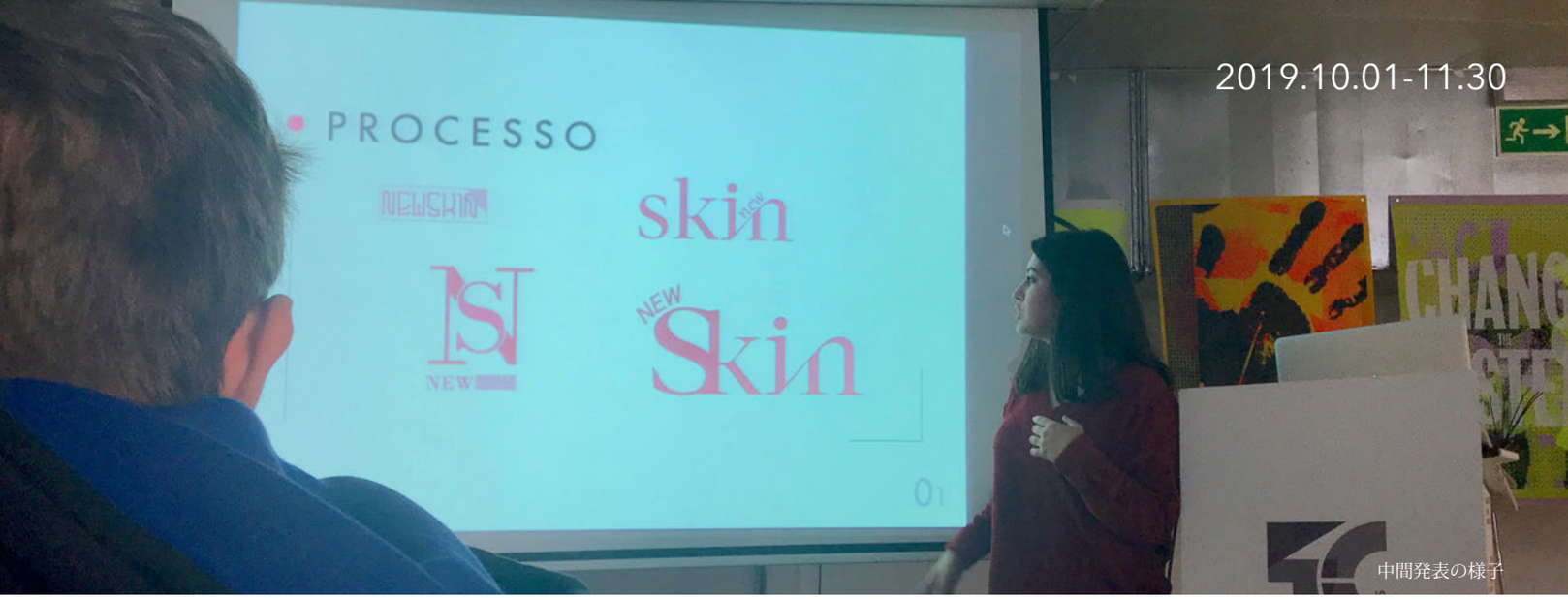
2019.10.01-11.30

IADE-Universidade Europeia

海外派遣プログラム
月間報告書

リスボン 万博の会場になったオリエンテ駅

中間発表も終わり、プロジェクトも終盤に差し掛かりました。日中の気温は 11 月下旬でも 15 度以上になることが多く、寒がりの私にはとても過ごしやすいです。



中間発表の様子

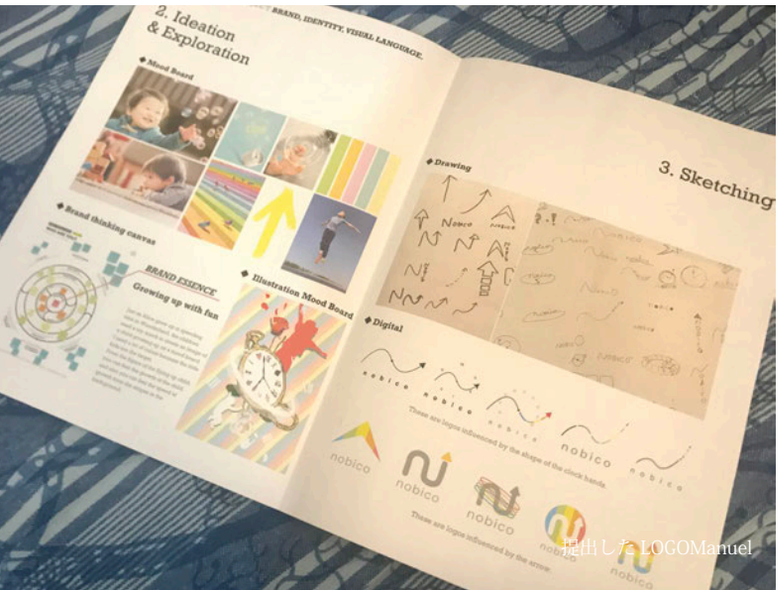
STUDY

VisualDesign の授業では、選んだ本の物語からブランドを考え、ロゴをデザインするプロジェクトを主軸にして授業が進んでいます。個人ワークになるため、基本は個人の進捗報告の授業と、ロゴデザインに繋がる授業が交互に行われています。

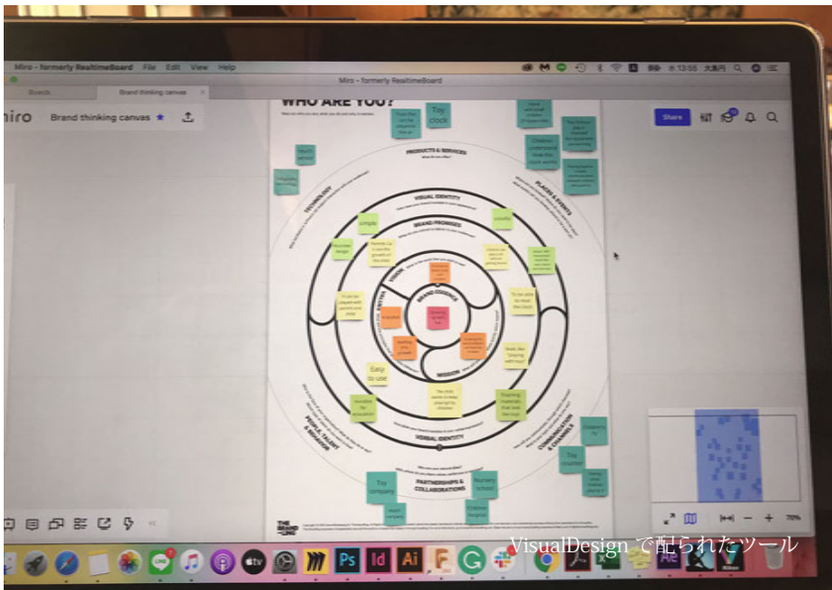
10 月の上旬には外部の講師を呼んでブランディングやロゴデザインについての講義をが行われました。ロゴがブランドやサービスのコンセプトを伝える一番の " 顔 " になる事、ブランドの価値・コンセプトの見つけ方、ロゴの違いによる印象の変化について、などとても面白かったです。また、講師がブランドの価値を見つける時に実際に使用しているツールとして Brand thinking canvas が配られました。新しい手法でデザインするのはとても楽しいです。

10 月下旬には、ロゴデザインの進捗をまとめた "Logo Manual" の作成に取り組みました。私は少し早めに提出をしたため、一時的な TA として周りの学生の相談も受けながら、様々な学生のデザインに対する考え方や過程に刺激を受けました。

11 月上旬には、リスボンの地域ボランティアが募集している T シャツのコンペに取り組みました。それと同時に自分のデザインしているロゴを T シャツに当てはめ、ロゴのバランスや構成を考える作業も行いました。初めはパッケージや広告ではなく、T シャツ当てはめた理由が理解できませんでした。しかし、授業の最後に各自のロゴが入った T シャツをスクリーンに映し出し、『これを着たいと思うか？』と教授が毎回問うことで理解ができました。施工品である T シャツを使用することで、ブランドのコンセプトやサービス内容を一時的に無視し、そのロゴが形や色だけで見る人を惹きつけられるかを判断することが可能になるからだと考えました。



提出した LOGOManuel



VisualDesign で配られたツール

Fashion and Photography の授業風景

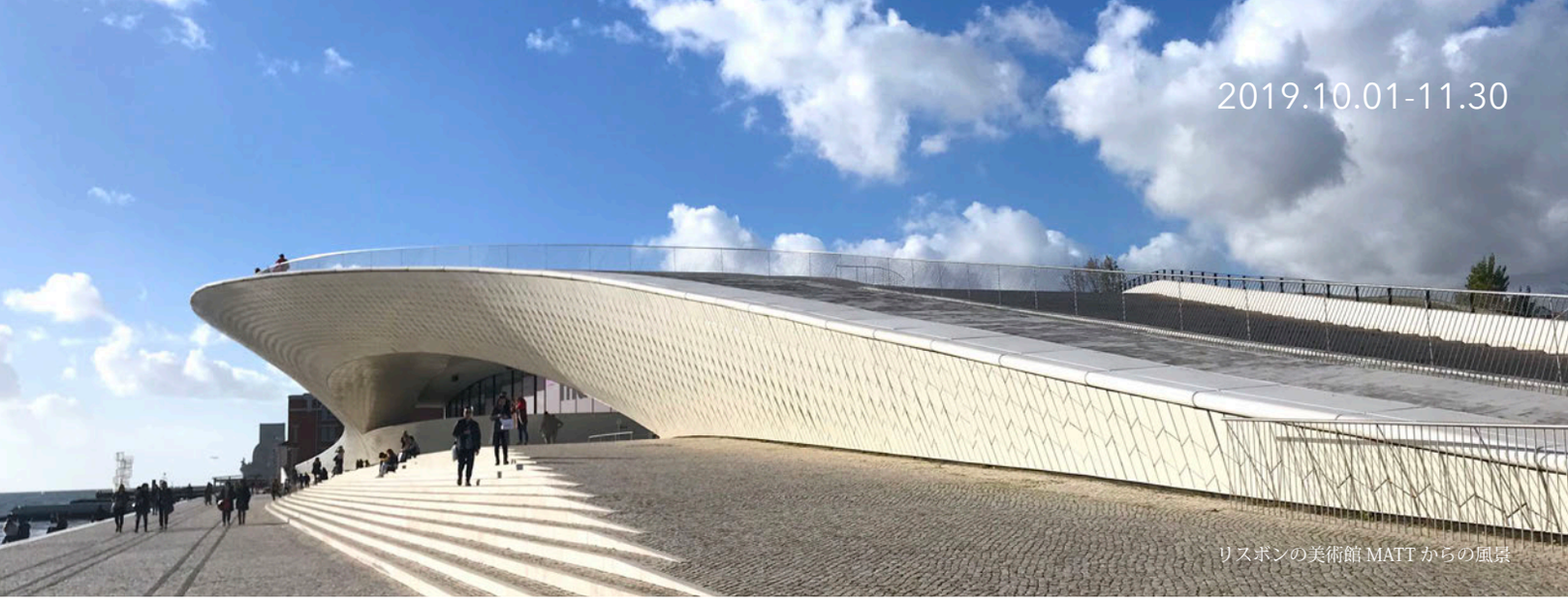
11 月下旬には、リスボンとその他の大学が提携したクリスマスカードのコンペにクラス全体で応募したり、リスボンで行われているデザインカンファレンスに行きました。また、中間発表として 3 分ほどのプレゼンテーションを行いました。プレゼンでは、ロゴの色についての質問や、使用する広告写真についてのアドバイスを学生や教授からいただきました。プレゼンを通して、同じアリスインワンダーランドでも、人によって様々な物語の捉え方があり、コンセプトが様々でとても面白かったです。例えば、アリスのフワフワした髪の毛が羊の毛に見えることから、羊毛を利用したブランド / ワンダーランドが現実世界と違って見えることから、未来のコンタクトレンズブランドなどがありました。

Fashion and Photography の授業では、スタジオでは機材について学び、座学では有名な写真家や雑誌を例に取り上げて写真と雑誌の構成について学んでいます。また、雑誌編集の練習として、週末に撮った写真を使用して雑誌の 5 ページを作成します。それらを次の授業でスライドに表示し、構成についてディスカッションしていきます。私が編集したページについて、視線が縦に向かう構成は、縦読みに慣れている日本人ならではで面白いとフィードバックを頂きました。また、12 月の撮影日に向けた相談も進めています。

11 月下旬には、リスボン地理学社会博物館で行われる、デザインカンファレンスの運営に 3 日間参加しました。仕事内容は機材の準備や受付対応など簡単な作業でしたが、待機時間や混み具合によって発表を聞きに行くことが出来たので、とてもいい経験になりました。

Fashion and Photography の編集の一例

カンファレンスの様子



リスボンの美術館 MATT からの風景

LIFE

リスボンの暮らしに慣れ、少し気が緩んだのか 11 月上旬に体調を崩してしまいましたが、日本から持って来た薬のお陰ですぐに良くなりました。

週末は、リスボンの美術館や蚤の市、10 月中旬には友人とポルトガルの南部の街ファロと、エヴォラに行って来ました。美術館は学生証を見せれば３ユーロ程で入れる所が多いので空いた時間に気軽に足を運びやすいです。ファロでは、リスボンとは違った白い家が並ぶ街を、エヴォラでは街に突き刺さっている水道橋を目にすることが出来ました。

また、リスボンの外れにある美容室 (千円カット？) に行ってみました。首当てのないシャンプー台で首の痛みに耐えた後、「剃刀ほうがよりクレイジーなヘアにできるからね！」と言われながら、一切ハサミを使われず剃刀でガシガシ散髪されました。仕上がりはとても良かったのですが、また一つ海外の洗礼を受けた気がします。

食事は基本自炊を続けています。ポルトガル 人のフラットメイトの自家製かぼちゃジャムや、ポルトガル伝統ソーセージなど日本には無いものを取り入れつつ、自炊生活を楽しんでいます。日本から持ってきたふりかけで作ったおにぎりはフラットメイトは喜んでくれましたが、私の好きな抹茶味のキットカットは苦いからと気に入ってくれず、ヨーロッパ人との味覚の違いを感じました。リスボンで人気のラーメン屋さんも私はあまり美味しく感じませんでした。スープを全て飲み干したいと言っていた友人が信じられません。日本の出汁の味が恋しいです。

毎週土曜に開かれる蚤の市

エヴォラの水道橋

ベネチアの橋から見た街並み

Biennale のチケット

Biennale

11 月中旬に授業の休みを利用し、
同期の千葉大の留学生とも予定を合わせて、イタリアのベネチアで開催される、現代アートの美術展覧会に行って来ました。
しかし、私たちが行った週が過去 5o 年で最高の高潮で、島全体が浸水していました。最終日は帰りのボートが動かず、膝くらいの水位の中を歩き、水位が急に高くなったため警察に止められ橋の上で身動きが取れなくなり、飛行機を逃す羽目になってしまいました。トラブル続きの旅行になりましたが、『travel is trouble』と言う事でいい思い出です。
Biennale は街の中に点在している展示とメインの展示会場に分かれていました。ベネチアの土の中にいるバクテリアと電気を使った作品や、奇妙な動きをする (狂気を感じさせるような) 作品などとても興味深いものが多く、またいつか天気のいい日に訪れたいです。

ベネチアの土を使った作品

奇妙な動きをしていた作品

海の目の前橋で 1 時間ほど一時避難

LISBON-PORTUGAL

2019.12.01-2020.01.30

IADE-Universidade Europeia

海外派遣プログラム
月間報告書

リスボンで見つけたオブジェと夕焼け

12 月に入り、授業内容も最終プレゼンに向けた作業になってきました。街中はクリスマスの飾りやイルミネーション、それを見にきた観光客で溢れています。

最終プレゼンの様子

STUDY

VisualDesign の授業では、配られたインフォグラフィックについての本の中から好きなデザインを選び、リデザインする課題が課せられました。トピックも選ぶデータも自由だったので、私は「日本とポルトガルの過去 10 年の地震」についてデータをまとめてデザインしました。ポルトガルに住んで一度も地震を感じたことがなかったので、日本とポルトガルの違いに興味を持ちこのトピックを選びましたが、デザインする過程で、ポルトガルにある島が多くの地震を引き起こしていることや日本とポルトガルの地形の違いについて教授やポルトガルの学生から教えてもらうことができ、とても面白かったです。

12 月中旬から最終プレゼンに向けた個人ワークがメインになりました。進捗も人それぞれでしたが、私はロゴと 3D イメージ以外に、手描きアニメーションを作成し年明けの最終プレゼンに挑みました。二つのクラス合同のプレゼンテーションのため、一人に与えられた時間がかなり短く、質疑応答なども無く淡々としていました。W 教授の方針で全員が母国語でプレゼンすることが直前で伝えられました。ポルトガル語やスペイン語などわからない言語の場合はスライド頼みのプレゼンテーションとなり、前から教授が「文字は少ないスライドにしてね」と言っていた意味がとてもよく分かりました。私も日本語で発表しましたが、「スライドが分かりやすかったから伝えたいことは伝わったよ」と友人に言われてとても安心しました。

インフォグラフィックのプレゼン
（教授の Facebook より）

プロダクトを考えるスケッチ

最終プレゼンのスライドの一部

2019.12.01-2020.01.30

撮影風景

ファッション雑誌の一部

Fashion photography の授業では、ついに私のスタジオの予約日が回ってきました。使える時間は 1 時間半あったはずですが、前の人の機材トラブルで 1 時間ほど押してしまい、モデルの子を待たせてしまうことになりました。この時期は他の子も最終プレゼンに向けた課題が多く、モデルの子の予定もありかなりドタバタした撮影でした。この大学では何か作品を作るごとにムードボードを作成してきましたが、いまいちムードボードの必要性を理解出来ずにいました。しかし、モデルの子に撮影の相談をする際に、ムードボードを見せることで撮影の雰囲気や服のイメージの話し合いがスムーズに進み、ムードボードの重要性を実感しました。

課題の一つであるファッションムービーは、日本人にとってはノイズになってしまう日本語の歌詞も、こちらの人は BGM のように聞こえるのでは無いかと思い、日本語の歌詞の入った曲を使用してみました。夜の撮影だったので、画質の相談をしましたが、今回の授業ではコンセプトやストーリーが重要だから問題ないよ！と言われたので、ストーリーボードに力を入れました。

この授業では最終プレゼンテーションは行われず、web 上での提出のみでした。個人的にクラスメートに作品を見せてもらうことはできましたが、全員分見ることができなかったのが残念です。このクラスには、自分の作品が上手くいかず泣き出してしまう人や、かなり露出の多い写真を撮る人や、グロテスクなピアスやタトゥーに興味がある人など、個性的な人に出会うことができ、とても刺激をもらいました。

Fashion movie のワンシーン

Fashion movie のムードボード

アズレージョ美術館

LIFE

リスボンで暮らすのもあと少しとなりました。冬休みにイギリスに行き、ポルトガル人の優しさは気候が大きな要因だと感じました。リスボンでは、スーパーのレジでが長蛇の列になっていてものんびり袋詰めさせてくれる (誰焦らないし急かさない) し、車は歩行者を見かけるとすぐに止まってくれたり、、、のんびり優しいポルトガルという国に慣れたままイギリスに行ったら、レジでは急かされ、車に轢かれそうになりました。イギリスではほとんど雲だったため、2 週間ぶりにリスボンに帰って暖かな太陽の光を浴びて、気持ちが晴れやかになりました。

しかし日中は暖かいリスボンですが、ヒーターや暖房がないリスボンの部屋は夜 (夕方ごろから) がとても寒い。この半年、リスボンで何度か風邪をひいてしまいましたが、部屋の寒さが大きな原因だと別の国に行って気がつきました、、、。(慣れは怖い。) どの国にも良い所も悪い所もあると思いますが、半年間過ごしてみて、私はとてもポルトガルが好きになりました。

授業が終わって友人と美術館や街の探索に出かけましたが、半年たった今でも新しい発見があります。ポルトガルの名物のトシュタミシュタ (ハムチーズホットサンド) もお店によってパンもハムもチーズも全く違うので、自分好みのお店を探すのがとても楽しいです。ポルトガルに住むのもあと数日、雨の日の坂道で転んで怪我をしないように気をつけながら、リスボンを堪能しようと思います。

様々なお店のトシュタミシュタ

街中で見つけたブックボックス

広場のクリスマスツリー

2019.12.01-2020.01.30

ロンドンのニューイヤーパレード

London

クリスマスからの２週間の冬休みは、友人とロンドンに部屋を借りて過ごしました。
ロンドンはとても日が短く、１日が短く感じましたが、クリスマスマーケットがとても賑わっていたので日が沈んでからも十分楽しむことができました。ロンドンに来て一番驚いたのは、クリスマスは全ての交通機関が休止、お店もクリスマスマーケットもやっていないことです。仕方なしにスーパーで買い出しをして家でのんびりパーティをしていたら、同じ家を借りていたシェフのおじさんがお手製クリスマスチキンをお裾分けしてくれました。

年越しは、花火とパレードを見に行きました。家かお寺で静かにのんびりと年越しをする日本とは全く違い、常にどんちゃん騒ぎの元旦。(年末に家族と日本旅行に行っていたフランス人は、「日本の元旦は静かすぎるし、外に人が全く居なくてびっくりしたよ！みんな何してるの！？」と驚いていました。) 新しい文化に触れて楽しい反面、年越し蕎麦とおせちが恋しくなりました。

ロンドンでたくさん見かけた三階建てバス

ニューイヤーカウントダウンの花火